

「えみふるふあいる」の配布と効果的な運用に向けて①

I ファイルの趣旨と配付状況

①ファイルの趣旨と特色

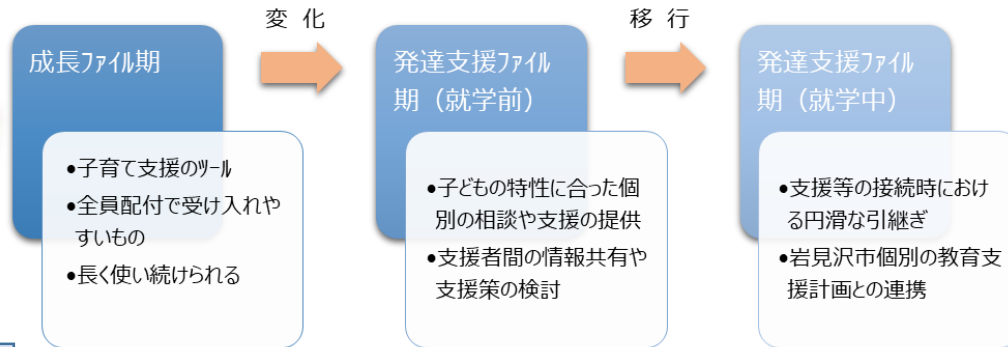
子どもが各ライフステージにおいて切れ目ない一貫した支援が受けられるよう、成長や発達、思い出を記録できる成長記録のファイル

- ◆配布時期 1歳6か月児健診時に、説明のうえ全員に配布
- ◆配布対象 市内在住の18歳以下のすべての子ども
- ◆保管 子ども及び保護者



②活用の流れ

「成長記録を収めるファイル」としてスタートし、子どもの発達について心配なとき、躓きに気づいたとき、支援者が関わり始めるときに、「発達支援の記録を収めるファイル」に変化。



えみふるふあいる配布状況（R5.2.20時点）

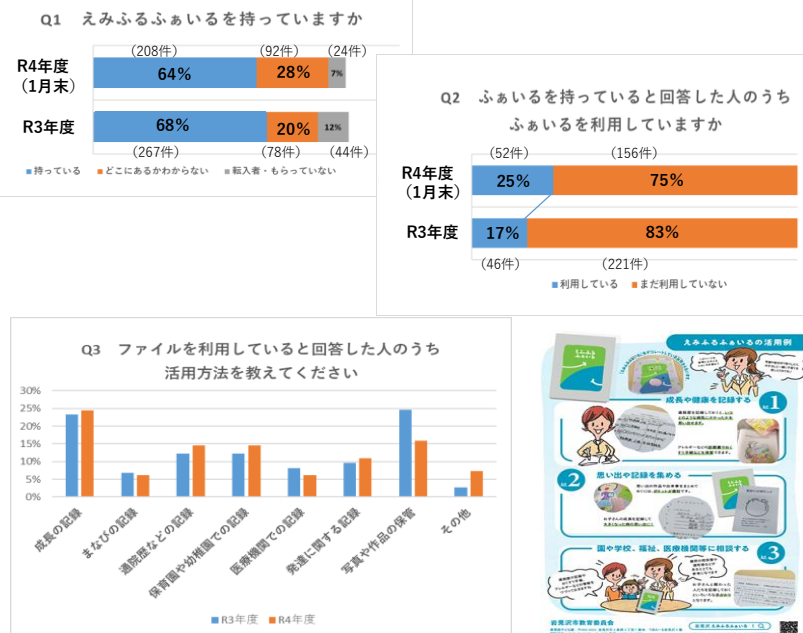
機関	配布部数				総計
	R1 (9月~)	R2	R3	R4	
保健センター	207	380	388	324	1,299
子育て総合支援センター	44	42	71	30	187
子育て支援係	0	9	25	10	44
3歳児健診		3	41	45	89
教育支援センター	11	0	0	0	11
市役所福祉課	5	0	3	4	12
市立総合病院	0	0	1	0	1
ことばの教室			20	21	41
計	267	434	549	434	1,684

※配布開始：令和元年9月（1歳6か月児健診）

II 令和4年度の取組

1. 【3歳児健診でのアンケート結果】

【調査結果】 R4.4~R5.1に実施した3歳児健診受診の保護者324名から調査票を回収。R3年度とR4年度の結果を比較。



Q4 自由記述

～活用している～

- 成長の相談の時に、活用している
- 成長、発達に関する書類をひとまとめにできるので、書類をなくさずすむ
- 通院歴について、細かい病気は記載していないが、忘れそうなことを記載している
- 幼稚園の入園前の個人懇談時にファイルを活用した
- 保育園の無くしやすい物（電話番号簿等）を綴っている
- 読んだ絵本の記録をしている

～要望～

- 電子化して欲しい
- 母子手帳や保育園の連絡ノートと連携できると使いやすいと思う

～その他～

- 他のもので代用している
- 書く時間がない、記入するのが重い
- 綴っていくと、ファイルが重くなる

2. 【支援者向け説明会】

- 「R3年度 専門部会より」
- 「ファイルを持って相談機関に行けばその結果が綴られる」こと自体がファイルをもつメリットになる。
 - 小中高校生になって支援が必要になったとき、過去の成育歴は重要である（保護者も忘れかけている）。

乳幼児期は特に“記録を溜めておく”ことが大切

「えみふるふあいる」に記録を綴る習慣・仕組みづくりが必要

市内の子どもに関わる様々な機関に向けて具体的な活用方法を提案する説明会を実施

参照：資料A

3. 【新たな活用の機会の開拓】

- 「R3年度 専門部会より」
- 小学校高学年や中学から特別支援学級に入る子もいる。そういう子は、就学相談の情報も、個別の支援計画書もない。保護者も気にしてこなかったので小さい頃の発達の経過がわからない。

すべての子どもに配布し“持ちつづけてもらう”ことが必要

「えみふるふあいる」の登場機会を増やす

- (1) 幼稚園 新入園児面談にて
 - (2) 就学時健診にて
- 参照：資料B

III 今後の取組の方向性

区分	課題	検討の視点	取組の方向性や内容【協議の内容】
保護者の意識を維持する	・えみふるふぁいるの所持・活用の意識を維持していくことが課題。	ふぁいるを持っていることへの意味を伝える	・1歳6か月健診の配布説明の際に、オプションシートやおくすり手帳、幼稚園や保育園の年間計画を綴るなど、基本シート以外の幅広い活用方法を伝える。
		ふぁいるの登場機会を増やす	・市主催のイベントにてオプションシートを配布し、ファイルに綴ってもらうよう声掛けをする。 ・絵本の読書記録をする等、楽しく子どもの成長を記入できるオプションシートを追加する。 ・R6年度より実施予定の就学前健診（R7年度入学児童）での活用に向けた準備を行う。（3歳児健診同様に年長児の保護者に問診票を手交する機会とする）
支援者の活用意欲の向上	<p>・“障がい”の可能性に関わることなど、保護者をいたずらに困惑させる情報は掲載を避けるため、「えみふるふぁいる」に綴られる情報は支援者にとってはしばしば物足りない。</p> <p>・「えみふるふぁいる」に綴られる情報を充実させていくには、各ライフステージの支援者の積極的な参加が欠かせないが、支援者にとって「えみふるふぁいる」に協力するメリットが少ない（特に幼児期）。</p>	「えみふるふぁいる」ありきの連携ではなく、連携のための1つのツールとして考える	<p>・「支援者向け説明会」を引き続きおこない、「えみふるふぁいる」はすべての情報共有をこれでまかなおうとするものではなく、「タテ・ヨコの連携」を支える1つのツールであることを伝えていく。</p> <p style="text-align: right;">参照：資料C</p>
		支援者にとっての“メリット”よりも、“将来のその子の支援において大切な資料になる”ことを伝えていく	<p>・教育・福祉に携わる支援者の多くは、「子どものために」という想いが原動力になっている。「えみふるふぁいる」が子どもたちのために有用になるよう、記録をふぁいるに綴る必要性を訴えながら、子育て総合支援センターでも地道に活用を進めていく。</p> <p style="text-align: right;">参照：資料C</p>

(案) 読んだ絵本を記録するシート



参考：ライフステージを支える支援機関

年齢	就学前（乳幼児期）						就学中（学齢期）												卒業後							
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
	1.6健診		3健診																							
支援者（機関）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園、その他 ・保健センター（母子） ・福祉担当課 ・教育委員会（幼児ことばの教室） ・子育て支援センター ・発達支援センター ・児童発達支援（通所支援サービス） ・相談支援事業所 ・医療機関 						<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 ・特別支援学校 ・放課後等デイ ・相談支援事業所 ・教育支援センター ・発達支援センター ・医療機関 						<ul style="list-style-type: none"> ・中学校 ・特別支援学校 ・放課後等デイ ・相談支援事業所 ・教育支援セ ・発達支援セ ・医療機関 						<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 ・特別支援学校 ・放課後等デイ ・相談支援事業所 ・教育支援セ ・発達支援セ ・医療機関 						<ul style="list-style-type: none"> ・就業先 ・福祉施設 	
	配布		提示		支援の引継ぎ				支援の引継ぎ						支援の引継ぎ											
えみふるふぁいる	<ul style="list-style-type: none"> ・成育歴（フェイスシート） ・医療の記録 ・1.6問診票、発達の記録 						<ul style="list-style-type: none"> ・3健問診票の記録 ・保育園、幼稚園等の様子 ・福祉、教育の支援の記録 ・療育機関の支援の記録 						<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の記録 ・個別の指導計画 ・個別の教育支援計画 													